

## 「土壌管理のあり方に関する意見交換会（第３回）」議事概要

１ 日 時：平成２０年５月２２日（木）１３：３０～１６：３０

２ 場 所：農林水産省生産局第５会議室

３ 出席者：別紙のとおり

４ 概 要：

（１）たい肥の施用基準等の設定や減肥指導のあり方等について、前回に引き続き意見交換を行った。概要は以下のとおり。

### 【たい肥の施用基準等の設定について】

たい肥の施用基準については、地力の維持を図るとともに、未利用有機性資源の循環利用を促進する観点から、これ以上施用することが望ましいたい肥の施用量として設定することが適当。また、たい肥の施用上限値については、たい肥の施用による環境負荷の増大を防止する観点から、たい肥の窒素有効成分量が標準的な窒素施肥量を超過することのないよう設定することが適当。

具体的な基準値は、たい肥の連用条件下における１作当たりの施用量とし、たい肥の種類別、主要作物別、黒ボク土・非黒ボク土別、暖地・寒地別に設定することが適当。

たい肥の施用基準及び施用上限値の設定に当たっては、各都道府県等が地域の実情に応じた基準をそれぞれで設定できるよう、その考え方及び根拠データを明示することが必要。特に、施用上限値については、規制的に捉えられたり、逆に過剰な施用が行われることのないよう、設定の考え方等を明確に整理すべき。

### 【減肥指導について】

簡易な減肥方法を示したものと、厳密な減肥の計算手法や環境負荷の可能性の検討方法など示したものに分けて、マニュアルを作成することが適当。

たい肥及び土壌中の可給態養分含有量の評価方法について、新たな知見や今後の方向性についても併せて示してはどうか。

### 【普通畑土壌の電気伝導度（ＥＣ）について】

現行の改善目標値（０.２ｍＳ／ｃｍ以下）については、各都道府県におけるＥＣに係る目標値の設定状況を参考に、生育障害や収量の低下が発生しない水準に見直すことが適当。具体的には、土壌のＥＣの実測値からは窒素等の施肥量の補正を行う必要がなく、施肥基準どおりに肥培管理を行うことのできる水準として設定することが適当。

### 【水田土壌の有効態りん酸含量について】

上限値については、水稻による吸収分のみりん酸を施用すれば、収量の低下が発生しない水準として設定することが適当。

（２）次回の意見交換会では、これまでの検討結果を報告書案として取りまとめ、提示することとなった。

- 以上 -

(別紙) 土壌管理のあり方に関する意見交換会(第3回)出席者

【委員】(五十音順)

板橋	直	独立行政法人農業環境技術研究所 物質循環研究領域 主任研究員
加藤	直人	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 資源循環・溶脱低減研究チーム長
金子	文宜	千葉県農林総合研究センター 生産環境部長
木村	武	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 研究管理監(座長)
草場	敬	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 土壌環境指標研究チーム長
郡司掛	則昭	熊本県農業研究センター 生産環境研究所 土壌肥料研究室 首席研究主幹兼室長
瀧	勝俊	愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 環境安全グループ 主任研究員

【事務局】

福田	英明	生産局 農産振興課 環境保全型農業対策室長	ほか
----	----	-----------------------	----